

珠洲市復興計画 第3回策定委員会 協議記録

日 時	2024年11月24日(日)13:30~16:30		
場 所	珠洲市産業センター 2階会議室		
参 加 者	役 職	所 属	氏 名
本 部	本部長	珠洲市 市長	泉谷 満寿裕
	副本部長	珠洲市 副市長	金田 直之
	本部員	石川県能登半島地震復旧・復興推進部 現地対策室 (珠洲市派遣)	皆戸 靖彦
委 員	委員長	東京大学農学生命科学研究科生圏システム学 専攻 准教授	橋本 禅
	副委員長	飯田地区地区長会 会長 (連合会会長)	泉谷 信七
	委員	正院地区地区長会 会長 (連合会副会長)	濱木 満喜
	〃	三崎地区地区長会 会長 (連合会副会長)	辻 一 (代理:前 順二)
	〃	日置地区地区長会 会長 (連合会監事)	糸矢 敏夫
	〃	宝立地区地区長会 会長	多田 進郎
	〃	上戸地区地区長会 会長	中川 政幸
	〃	若山地区地区長会 会長	北風 八紘
	〃	直地区地区長会 会長	樋爪 一成 (欠席)
	〃	蛸島地区地区長会 会長	梧 光洋
	〃	大谷地区地区長会 会長	丸山 忠次
	〃	社会福祉法人すず椿 理事長	宮野 修
	〃	農業生産法人ベジュール合同会社 代表	足袋拔 豪
	〃	株式会社ノトハハソ 代表取締役	大野 長一郎
	〃	石川県漁業協同組合すず支所 参事	山崎 幸治 (欠席)
	〃	珠洲市特定地域づくり事業協同組合 事務局	馬場 千遥
	〃	株式会社のろし 企画マネージャー	小寺 美和
	〃	特定非営利活動法人ガクソー 代表	北澤 晋太郎
	〃	株式会社 Drone Partner's 代表取締役	浦 達也 (欠席)
	〃	石川県立飯田高等学校生徒 (ゆめかな地震班)	鈴木 杏佳 (代理:畠田 焯心)
事 務 局	珠洲市令和6年能登半島地震復旧・復興本部事務局 事務局長		濱野 良夫
	珠洲市令和6年能登半島地震復旧・復興本部事務局 次長		西 靖典
	珠洲市令和6年能登半島地震復旧・復興本部事務局 係長		河原 博志
	株式会社計画情報研究所		米田 亮 喜多 峻平 田村 浩次

## 1. 開会

### 【濱野事務局長】

案内の時間より少し早いですが、ただ今より第3回珠洲市復興計画策定委員会を始めさせていただきます。本日はお忙しい中ご出席いただき、感謝申し上げます。本日司会を務める事務局の濱野である。よろしくお願ひ申し上げます。本日、直地区の樋爪区長会長、県漁協すず支所の山崎参事、株式会社 Drone Partner's の浦代表は都合により欠席となっているためご報告させていただきます。また、三崎地区の辻区長会長に代わり伏見地区の前区長、飯田高校ゆめかな地震班の鈴木さんに代わりまして畠田さんと引率の先生にも参加いただいている。開会にあたり市長よりご挨拶をお願い申し上げます。

## 2. あいさつ

### 【泉谷市長】

委員の皆様方におかれましては、お忙しい中ご出席いただき誠にありがとうございます。

9月21日の豪雨により更に被害が拡大し、3名の方が尊い命を失われた。地震の災害関連死の方々40名を含めると地震と豪雨により140名もの多くの方々が尊い命を失われ、改めて心より哀悼の意を表す。

大谷町においては、この豪雨により町の中心部が土砂で埋まっており、外浦については至る所で裏山が崩れ、住宅に土砂が押し寄せているというような状況である。そして何とか断水を復旧したところも、浄水場が土砂で埋まるなどして再度断水ということとなった。そうした中、何とか大谷浄水場については今月末に復旧する見通しということで進めているし、また清水浄水場の配水エリアについては地震発生後一度も通水できていないが、こちらについても大谷浄水場から水を通すということで進めているところである。

大谷小中学校グラウンドで建築中の応急仮設住宅については合併浄化槽に土砂が流入し、完成が2ヶ月遅れてしまうということになったが、何とか今月末に完成予定ということである。

豪雨によって道路も再度至る所で被災しており、未だ通行できない集落もある。また特に農業においては、土砂、また流木が堆積して今後の営農が非常に厳しい状況である。地震による復旧については、パイプラインや用排水路を復旧し、作付けも5割～6割できたということであったが、3割ほど収穫したところでの豪雨ということで、本当にダメージが大きく、更に過酷な状況になっている。

第3回目となる珠洲市復興計画策定委員会、また地区ごとの意見交換会もそうだが、豪雨の被害により、1ヶ月ほど後ろ倒しとなってしまった。この間、復興計画において最も重要である各地区の「新たなまちのかたち」の議論であるが、進捗を懸念していたが、ある程度議論が進んだ面もある。一方で解体・撤去の方が市内全体で今現在、申請数に対し44.3%解体・撤去が完了しているというような状況で、特に蛸島町では60.2%、正院地区では53.5%ということで、解体・撤去が進んでいるが、これによる更地というか空き地が増えてきて、地域のコミュニティが維持できるのか、今後どうなるのかといった不安も募っていらっしゃるのではないかと思いますし、また人口減少も懸念される場所である。

こうした中で珠洲市においては10月の臨時市議会で、「珠洲市住まい再建支援金」を創設し、新築される方、800万円以上の経費に対して1割補助で、上限200万円。子育て世帯については15%の補助で上限300万円といった形で創設したが、「新たなまちのかたち」が中々決まらないうと、ちぐはぐにならないのかという心配もある。そういった意味においてもできる限り、地域で「新たなまちかたち」の議論を進めていただく必要もある。

復興計画全体については、これまでの皆様方からのご意見、あるいは珠洲市議会議員さんのご意見、

ご質問等を反映し、見直しすべきところは見直し修正をして参った。

また前回の策定委員会においてご提言をいただいた官民連携による復興センターの創設であるが、こちらについては石川県として「一般社団法人能登官民連携復興センター」を立ち上げられております。

本格的な復旧はこれからであり、この応急復旧も未だ十分ではない面もある。復興についても復旧と同時進行で進めていかないと中々前に向けない、ここを乗り越えられないと踏ん張れないといったこともある。本日の策定委員会であるが、「新たなまちのかたち」の具体策や、あるいは防災体制の具体的な見直しといったものは、継続して議論を進めていかなければならないと思うが、その他の部分についてもできる限り煮詰めていただければと思うし、また新たな提言も遠慮なくおっしゃっていただきたい。

より魅力ある最先端の復興を成し遂げてまいりたいと考えているので、何卒よろしくお願い申し上げます。

### 3. 報告事項

#### 【橋本委員長】

これより会の進行を務めさせていただく東京大学の橋本です。円滑な議事進行にご協力をお願いする。9月の豪雨災害があつて、今後の復興計画の検討の議論がどうなるかというふうには、私も離れているところに住んでおりながら心配していたが、皆さんの本当に大変なご尽力のおかげで、地区別の議論、あるいは市全体の復興計画の策定というのが着実に進んできていると思う。

今日は特に内容について議論するとても良い機会だと思うので、是非とも円滑な議事、また積極的な議論にご参加いただくようよろしくお願い申し上げます。

それでは初めに報告事項について事務局より一括して報告をお願いする。

#### < 事務局より報告事項の説明 >

#### 【橋本委員長】

資料1から5について事務局から説明があつたが、質問等あるか。

( 質疑なし )

### 4. 議事

#### 【橋本委員長】

それでは議事に移りたいと思う。議事次第の4の議事①と②、珠洲市復興計画案、それから地区別の復興方針について事務局よりご説明をお願いする。

#### < 事務局より議事①、②の説明 >

#### 【橋本委員長】

ここで今ほど説明のあつた、珠洲市復興計画案、地区別の復興方針について、ここにお集まりの委員の皆様からのご意見、ご質問をいただきたい。

#### 【北澤委員】

資料6の36ページ避難所について、主に目の見えない視覚だったり、聴覚だったり障害を持ってお

られる方が避難所で大変だったという内容のNHKのドキュメンタリーか何かを見たが、福祉避難所やそれに特化した避難所を開設したりとか準備をしておいたりとか、そうした文脈をしっかりと載せることが大事かなと思っている。ペット避難所のように、別段取り立てて、福祉避難所のようなそういった計画があっても良いのかなと思った。

**【濱野事務局長】**

復興計画案には福祉避難所の記載はないが、地区防災計画等でも指定避難所や福祉避難所の記載はある。今回の災害でも、「長寿園」や「さざなみ」で高齢者や障害を持たれている方のための福祉避難所を開設したが、そうしたところも読み込めるように修正したい。

**【泉谷市長】**

今の北澤さんのご意見は本当に大事なところだと思う。事前に福祉避難所として協定を結んでいても、そこに一般の方も避難してこられたり、そもそもスタッフが元日であったので、参集もままならない非常に対応が困難な状況があったが、そういう状況だと命に関わってくるので、そうしたところも含めて対策を講じる必要がある。

**【三上健康増進センター所長】**

市長が言われたように、今回、福祉避難所を2ヶ所開設したが、中々早期には開けなかったという現実がある。また普通の避難所の方でも、トイレ等で、目の見えない方等に不自由な思いさせてしまったということを感じているので、計画の中で盛り込んでいきたいと考えている。

**【泉谷市長】**

実際はそういった施設の方々は、ヘリで移動いただいたといったこともあったと思うが、そこまでの間はDMA Tとか、そういった方々の支援で何とかしのいでいたのか。

**【三上健康増進センター所長】**

そうですね。本当にそこまで把握できたのが1月20日頃になってからで、福祉課の方でも把握している要配慮者の方には連絡を差し上げていたが、中々連絡が取れず、把握が難しかったという現実があった。早期に把握できた方については、1.5次避難所や2次避難所に避難していただいたが、全てという訳にはいかなかったので大変申し訳なかった。

**【北澤委員】**

金沢の方に拠点がある聴覚障害者のための手話通訳士を派遣できるようところがあったが、通訳士の派遣について体制が整っていないため派遣できなかった等の議論もあったが、一方で何もできなかったという反省があったというふうに聞いているので、何かそういうところとの連携みたいなことも含めて考えていきたいですね。

**【多田委員】**

今回、このような長きにわたって避難所が、開設されているっていう状況は他にもあまり例が見られなかった。障害者や要介護の関係で、それぞれ問題を抱えている避難所が沢山あったと思う。

避難所は安全・安心で過ごしていかなければいけないので、市役所や関係機関としっかり連携をとっ

て運営していくためには、今の教訓をまとめて、今のこういうケースの場合はどうすればいいのかとか、避難所運営に関して、あるいは避難所の機能化に対して、どこかで総括していく必要があるのかなというのを個人的には思う。

#### 【三上健康増進センター所長】

その点については宝立だとHuMA（ヒューマ）さんが入ってくださったということで、ケースをまとめたりとかという形は今進めているが、やはり今回想定していた職員の配置であったり、連携といったところが通信障害もあり、出来なかったというところ。それから避難所運営が長きに渡っているというところに関しては、本当に運営していただいている皆さんに本当に感謝しかないが、何とかこれからのマニュアルとして、残していければと思っている。

#### 【泉谷市長】

各地区区長会の皆さん本当に、改めて心から感謝申し上げます。丸山区長会長さん、まだ大谷小中学校には避難されている方もおられるが、もう間もなく応急仮設住宅の方が完成して、入居の方も始まると思う。朝晩だいぶ冷え込んでいるので、健康管理の方も心配で、本当にご苦勞をおかけしている。ありがとうございます。

#### 【橋本委員長】

第1回の復興計画策定委員会の時も、災害時の色々な応急対応の記録をしっかりとって、それをまた次の経験として生かしていく重要性のご指摘があったと思う。是非とも防災計画、それから今回の復興計画の中にしっかりと反映していただきたいというのと、今大変な時期ではあるが、出来るだけ色々な形で記録を残しておかれると、後々、非常に貴重な資料になると思うので、何とかやっていただきたいと思う。

#### 【丸山委員】

復興計画案の内容を見ると、ものすごく盛りだくさんだと思う。これを全て出来ればベストだが、それは当然出来ないことだと思う。私らが心配することではないが、予算的には膨大なものになるのではないかと思う。予算の調達は最終的には国の判断で付けられると思うが、これをどのようにやっていくのかなと思うのと、あとはこれを進めていく上における「人」の問題だが、もちろん市の職員の方もそうだし、業者さんもそうだが、この「人」の確保っていうのが大変だと思う。そう考えると、これだけの計画を見込んで良いのかというのをすごく感じる。本当に出来るのかなと心配になる。

また、これだけの計画をどういう判断基準で、採用するのか、却下するのかというのをどうやってやってくのかなというのはすごく心配。

あと細かいところで、大谷小中学校グラウンドの方に仮設住宅ということで結構立派なものを建てていただいている。最終的に学校の敷地ということなので、どこかの時点で潰すのかと思うが、その辺の見込みと恒久的に使える形にするのかどうか、ということによってその公営住宅として、新たにまた考えなきゃいけないのかなと考えていて、今のものはそのまま公営住宅になるのであれば、新たなものを建てる必要はないが、そのまま恒久として残していただきたいという希望だが、その辺をできるだけ早く判断できるのであればお願いしたい。

あと神社の関係になるが、私達のところでは神社が倒壊してしまった。唯一、神輿を保管している別の建物があるのだが、とりあえずそれで賄って祭り等をやっていきたいと思うが、神社を再建するうえ

で、氏子の中で全てその経費を出し合うことは無理だと思う。神社再建のためのご支援をいただけると助かるなというふうに思う。今、お祭り再建の支援としては、神社を建て替えるということに関しては、行政から支援が出来ないというふうに聞いているが、まだ検討の余地があるのかを教えてください。

#### 【泉谷市長】

復興計画案に載せている施策だが、多岐にわたるが基本的に実現不可能なものはここには載せていないので、実現に向けて進めていきたいという内容であるということでご理解をいただきたいと思う。庁内での議論を経て、どう頑張っても難しい、あるいは財源的に不可能だといったものは削除、調整はさせていただいている。

ただし、地区ごとに上がってきている計画については、復旧に関わる部分はしっかりと取り組んでいきますし、道路の拡幅であったり、ハード的な整備についてもできる限り全て対応できればと思っている。ただ、それに付随して様々な施設といったことになると、財源の問題も出てくるが、できるだけ対応してまいりたいという思いで進めていきたい。

応急仮設住宅を災害公営住宅に転用できる場所はしていければ良いが、やはり非常に狭いといったところもあるので、そこをどう活用していくか、あるいはこちらの応急仮設住宅に入られた方はそのまま災害公営住宅として、引き続き入居し続けられるけれど、プレハブタイプだとそこで一旦、何年後かに期限が来る、ということになっては不公平感も出るので、一旦リセットをし直すところも必要なのかなと思う。あるいは今の応急仮設住宅で、木造タイプのもので、そのまま災害公営住宅に転用できるタイプのものであるが、そこについては例えば、お一人暮らしの方に限るのか、あるいは2人暮らしで手狭でも良いよと言う方も含めるのか、あるいは、学校のグラウンドに建設した応急仮設住宅につきましては、学校のグラウンドなので、これはいずれ撤去という思いでいる。しかし、中には立派な木造住宅なので、そのまま残せばどうだと、これを取り壊すのは色々な面でもったいないのではないかとといった声もある。基本的には学校のグラウンドに建設した応急仮設住宅については、いずれ撤去という思いではいるが、全く駄目ということではなくて、検討の余地もあるのかどうか、もう少し考えていきたい。

#### 【丸山委員】

グラウンドを別の場所に整備すれば良いのでは。

#### 【泉谷市長】

それは難しい。どちらが費用的にということはあるが、柔軟に対応できる場所は対応していきたい。

#### 【丸山区長】

あと神社はどうか。大谷神社は宗教団体の扱いであり、支援の対象にならないと聞いた。キリコの保管場所であれば対象になるが、神社そのものは支援の対象にならないと言われている。

#### 【濱野事務局長】

神社の関係についてだが、色々な形態で地域に神社があると思われるため、この場で一律的なお話というのは、難しいかなと思う。総務課が担当になるので、個別に相談させていただければと思う。

#### 【糸矢委員】

まずこの復興計画案について最終案に近いものだろうと思うが、珠洲市のまちづくり総合指針と一緒に

になるのか疑問である。私たちは復興計画の策定委員であって、総合指針の策定委員ではない。

復興するためには全部やらなきゃ駄目というのは分かる。これを例えば、市民の皆さんに見せても全部書いてあるので文句のつけようがない。

ただ、今、何が重要かといったら、まずは住居、生活インフラ。ハードもあるし、ソフトもある。それらについて、まずはこれとこれをやるぞという、計画を出してほしい。またそれを抜粋して整理整頓してほしい。実施時期も書いてあるが、これに全部目を通す人はいないだろう。

市民に説明をした上で、例えば、地区別のまちづくり協議会でこれを参考にしながら、各町内で取り組んでいかないといけないことがあり、参考にしてほしいというような文章であるならばそれで良いが。

3回目の意見交換会には復興計画案これそのものを出すのか。多分出ないだろう。まとめたものを見せて終わりだろう。

僕が言いたいのは、ここは復興計画策定委員会なわけで、総合指針との関わりを教えてほしい。

それから、お前らが考えたんだろう、承認したんだろうと言われたら困るので、やってほしいことがいっぱいある。例えば、災害公営住宅、さらに道路も含めた災害公営住宅の土地の造成や確保。これ無しに、まちづくりなんてまず考えられない。

そういうプランを考えるものだと思っていて、狼煙の場合は、災害公営住宅をどこにどんなものを造る。道路はどうする、といったことを考えている。まずは住むところである。

もう一つ、なりわいについて、まずこの会議に、漁協の代表がずっと欠席している。農業者として足袋拔さんが出席しているかもしれないが、足袋拔さんは米を作っていない。なぜ農協の代表が委員に入っていないのか。今一番大変なのは田んぼである。住むところとなりわいというのをどうしていくのかということ、まずは復興計画に出してほしい。

その他に付属するものについては、皆さんから意見をもらって、ここにも書いてあります、そこにも書いてあります。と言うのであれば分かるけど、これ全部読んで、何か意見言えって言われても、これ見たら、珠洲市はこれ全部やってくれるだというふうに思う。誰がやるかも書いてない。

国がやるのもあるし、県がやるのもあるし、市がやるのもあるし、僕たちがやらなきゃならないこともある。そこを整理して計画を作っただけならばというふうに思う。

#### 【濱野事務局長】

全部お答えできるか分からないが、3回目の意見交換会には4ページ目ぐらいに入っているA3横長の資料はお配りしようと思っている。これでも多いかと言われると、何とも言えないが、こういったもので地域の方との議論を深めていければ良いと思っており、詳細なものを出すことはないと思っている。

また先ほど言われた地域ごとのプランというのは、各地区の復興方針図の方でお示しし、その中で議論を重ねていくというふうな位置付けにしたいと思っている。

#### 【金田副市長】

まちづくり総合指針との関わりについてですが、こちらとしても糸矢区長さんがおっしゃるようなイメージで考えており、総合指針、総合戦略は復興計画を踏まえたもので作る予定になっている。また委員さんについては別途選定する。

そんなことで、まずはこの地震からの復興という次元でのとりまとめがこの復興計画となる。おっしゃるように、豪雨災害も9月にありましたから、農地が大変になっていることは重々承知している。とは言え、福祉も大事だし、同じく教育も大事である。行政としての計画としては、このようなレベルで一旦まとめる必要がある。

そんな中で、おっしゃるように復興住宅からなりわいの再建、これも優先順位が高いのはもう重々承知している。これが分かりにくいということであるならば、むしろ分かりやすい資料をこれから作っていくべきというふうにこちらは捉えているので、よろしく願い申し上げます。

#### 【橋本委員長】

復興計画の総合性が高くなっているのは、今回の地震災害と津波、それからそれに引き続いての豪雨。この災害の規模の大きさというのを表しているところがあるからだと思う。ある部分を土木的に復旧するだけではなくて、色々な面を総合的に見直していかないといけないというのが、結果的にこの復興計画が極めて総合的な内容になっているということなのかなと理解している。

糸矢区長の話を知っていて、今の金田副市長の話もそうであるが、やはりどうやって多くの人とコミュニケーションしていくのかというのが、今後課題になってくると思う。この計画も、ここだけで議論しているわけではなくて、ここでもご意見をいただいているし、地区別の意見交換会でいただいたご意見も入っていると思う。色々な形で皆さんのご意見が入っているというのを、うまく説明していく必要があるのかなと思う。色々なものを、5月の段階での復興計画の中身よりもずっと内容が増してきて、それが故に分かりづらくなってしまっているという事実もあると思う。

例えば、この事業はどっから出てきたとか、中々一つ一つを紐解くことが難しい。ただ、今おっしゃられたこともごもっともだと思うので、今度の12月の地区別意見交換会から皆さんに説明する機会もあると思うので、どういうプロセスで皆さんのご意見を汲み上げているのかというのも、注意してご説明いただければと思うのでよろしく願い申し上げます。

#### 【中川委員】

この復興計画、色々なことが網羅されていて、短期・中期・長期というような形で急いで取り組むというものが載っている。その中で、どの部分になるか分からないが、先ほど糸矢さんがおっしゃったように、例えば農業、上戸町の方はこの間の水害でも酷い目に遭った、地震でも酷い目に遭ったが、この間の水害で本当に田んぼや畑がもう酷いことになっている。地震でも用水路等がやられていて、全然水が通っていないから、私達の集落から下のところはもう全然耕作がされていない。

水害の前の時には、市長さんも来年度の田植えまでには作付けができるよというお話をしていたが、この水害でまた酷い目に遭った。来年、再来年、作付けができるのであろうか。優先順位で言うと、田んぼは、2年、3年と放っておくと多分耕作が非常に難しくなるのではないかなと思う。早急に用水路を直す、水害で入った流木や土砂を除去するというようなことで、畑や田んぼが耕作できるような状況に急いでやってほしい。これは最優先じゃないかなと思う。なりわいということでもそうだし、珠洲市に残って農業をやろうとする人たちの意欲にも繋がる。もちろん道路や河川も被害を受けているから、そういう直接インフラに関わることも整備しなくてはならないが、田んぼや畑の用水路の修理とか、土砂、流木の除去を優先的にお願いしたいと思う。

#### 【泉谷市長】

農業に関わる部分のご意見をいただいているが、災害復旧としてできるだけ早く対応していきたいと思っている。珠洲市だけでは中々手が回らないところがあるが、国においても石川県においても、「奥能登営農復旧・復興センター」というものも立ち上げているし、農地に堆積した土砂や流木の撤去については、国・県と連携をしながら早期に進めていくということで、既に動いている。ただし、来年の作付けまでに撤去できる部分と、1、2年かかる部分と、5年以上かかる所と、少し色分けをして進めてい



くというのが今の県のスタンスではあるが、できるだけ早急に対応して行くように進めていきたいと考えている。

災害公営住宅についても、できるだけ早く完成したいと思っている。この復興計画は復興計画としながら、以前から地区別の「新たなまちのかたち」をどう決めて、それをどう具体的に、迅速に実施していくかが重要だというふうに申し上げている通りで、そこはしっかりと取り組んでまいらる。

確かに、この復興計画は多岐にわたって項目も多く、どこにメリハリがついているのかということかと思うが、できるだけ早く取り組むべきことは取り組んでまいるので、それがパッと見て分かりづらいということなのかもしれないが、先ほど事務局の方でお答えしたように、分かりやすくお示しするということも重要であろうと思うので、よろしくお願ひ申し上げる。

#### 【中川委員】

資料7のまちづくり協議会の開催概要について、誤解の無いように説明したい。上戸地区が他の地区から比べると特別遅くなっているが、上戸地区は8月24日に「まちづくり協議会」を区長会を中心としたメンバーと各町の団体長で発足した。9月中に各町民に要望や意見を出してもらい、それを集約して、9月27日にまとめようとしていたが、9月21日の豪雨があったことで、新たな要望など影響が出てくると思い、9月27日の協議会を延期した。その後、11月16日に「まとめの会」を開いた。更に、昨日11月23日にコンサルの方と市の担当の方をお招きして協議会を開催したのだが、私達からすると発足が1回目で2回目が11月16日、そして昨日が3回目ということでやっているのだから誤解のないようにお話をしておきたいと思う。

#### 【橋本委員長】

必ずしも協議会を何回やらないといけないという決まりがあるわけでもなく、恐らく被災の状況がそれぞれの地区によって違うと思うので、1回、恐らく2回は必ず皆さん開催されると思うが、もしかすると2回でほぼ合意される地区もあるかもしれないし、3回、4回というふうに議論を続けていく必要があるところも出てくると思われる。明確に何回やるのがゴールではなく、それは市の方も認識されている。しっかり皆さんの意見が、この計画の中に入って行くというのが、ゴールになってくると考えている。

中川区長がおっしゃられたように、記録されてないところで行われているような、集会等の意見もあると思うので、もしそういったものや資料に漏れているところがあれば、事務局の方にお伝えいただければと思う。

#### 【中川委員】

昨日の協議会の感想だが、コンサルタントの方で用意した資料として、地図上に可視化する、私達の要望を書き込んだ形で明示していただき、その上で議論をしたので、皆さんそれぞれ頭の中で描きながらやるのではなく、河川、山など地図に書き入れたものを使用したのだから、とても具体的にイメージができ、良い協議ができたなと思っている。

#### 【多田委員】

宝立町の要望の中で、今の流れと全然違う要望も出てきているものもあるので、後で事務局の方にお知らせする。

宝立地区は鶴飼・春日野地区で昨日2回目を開催したが、1回目に出た課題について、計画情報研究

所の方でまとめていただき、昨日の話では、やはり災害公営住宅をどこに作るのかという場所の話で、ここは駄目だろうとか、ここは良いだろうとか、ここは地権者が沢山いて難しいのではないかと、色々な話が進んできたが、そうすると今度は「まちづくり協議会」だけではなくて、地権者が集まっている地区ごとにやっていく必要があるのかなと考える。どのぐらいの人間が災害公営住宅に住みたいのか、まずその人数を把握することが大事で、その次の段階として地区別の更に細かい地区別のことをやっていく必要があるのかなと感じた。恐らく、まちづくり協議会だけでは、多分この問題は進んでいかないだろう。臨機応変に何回か、その地区ごとでやって、堤防の問題も含めて納得するまで話して、この町として本当に必要なかどうかというのを徹底的に議論する場が必要かなと考える。事務局も大変だろうけど、そういうことで進んでいかないと、見える化は進んでいかないと昨日の2回目の協議会で感じた。

#### 【泉谷市長】

実際に土地区画整理事業を広い範囲で入れると、中々合意を得られるのが難しいところも出てくるかもしれないが、例えば鶴飼・春日野地区において、ブロックごとに、そういう話し合いができないとか、実際に道幅を拓げる、あるいは宅地の交換等のやり取りを行っていく上で、どうすれば円滑に進んでいくのかということを考えながら、実際に進めていくときには、多田区長会長がおっしゃったように、そこの地権者だけの集まりとか、そういったことはこれから実施する上で必要になってくると思う。

あとはちょうど今、この時期が非常に悩みどころというか、自力再建を思い切ってするか、あるいは取り壊さずに修繕で住み続けるか、全部手放して市外に移動するか、ちょうど別れ目、ギリギリのところなのかなと思う。

#### 【多田委員】

先ほど、市長から珠洲市独自で住まい再建の支援金の制度があるよというお話があったが、再建する場合や、地盤改良する場合など、例えば、液状化に対してこれだけの補助金が出るとか住宅再建に向けてや災害公営住宅についてなど、何かそういうことが分かる分かりやすい資料があれば良いと思う。

#### 【泉谷市長】

3回目の地区別の意見交換会に、住宅再建に向けてそういった分かりやすい支援ガイドみたいな資料を用意すれば良いと考える。

蛸島町でもエリアにもよるかもしれないが、割と自力再建の意向をお持ちの方はいるよという話も耳に入ったりもする。

#### 【梧委員】

現に新築している方はいる。もうどんどん進んでいるので、道を拓げたりするのであれば、今、公費解体が進んでいる間に手を打った方が良いと考える。

#### 【馬場委員】

今、市内の某不動産屋さんで少しお手伝いをしているが、家を建て直したいという相談とか、そのための土地がないかという相談とか、あとそれがハウスメーカーから結構きたりしていて、皆さんかなり動き出そうとしているんだと思うので、先ほどおっしゃったように、何かもう建てちゃったから使えないってならないように、なるべく足並みを揃えて、地域で話ができるようにしないといけないと思う。

住宅メーカー側が、今契約しないと、どんどん上がりますっていうふうに話しているようなことも聞くので。

#### 【泉谷市長】

チグハグになったり歪になったりしないように、「まちのかたち」を決めた上で、進めていくというのが一番良いのだろうけど、かと言って、これまでの大きな大災害にあったところで制限をかけてしまったがために、かなり出て行かれたというところもありますので中々難しい。

制限をかけて、2～3年考えがまとまるまで家を建てては駄目だとか、2～3年で済めば良いけれど、4～5年かかったりすると、そういったことで諦めてしまうというのがある。それとあと、災害公営住宅についても戸数が1,000個必要なのか、600戸で済むのか、その辺りも意向調査しながら絞っていくが、そういった面でも行政としては、自力再建をされる方が多いに越したことはない。ただ無秩序といったところが後々響いてくることも考えられ、これだけの災害ですの、「災い転じて」にしたい、より心地の良い環境にしていきたいと思っているが、それがチグハグにならないようにということが、今非常に難しい局面にあるかなと思うが、その辺りを上手く何とか乗り越えていきたい。

#### 【橋本委員長】

協議会での議論がしっかりと共有されていくと、そういうビジョンの共有みたいなのも進むのかなと思うので、是非進めていただきたい。

#### 【丸山委員】

まちづくり協議会で出た要望について、どういった方向性になるか回答をいただきたいと思うが、そのタイミングというのはいつ頃になりそうか。今は要望を出す一方なので、その回答があって次のステップに進んでいける。要望したものが駄目ということなら理由を示してもらえば良い。これは可能性があるんで検討するといった回答でも良い。

#### 【濱野事務局長】

例えば、道路等は現在、災害査定を受けているものがあったり、今まとめているものがあったり、その中でも市・県・国の道路があたりする。全体の災害査定の中でOKが出れば、それはできますということも言えるのだが、今は作業している段階なので、すぐにお答えできないのはその辺のこともある。ただ、中にはどうしても要望に沿えないものもあるかもしれない。担当課と相談して、すぐお答えできるように整理しておこうと思う。

#### 【泉谷委員】

飯田町は地域的には珠洲市の中で狭い範囲なので、他の地区のように色々な地区があるわけではないので、小ぢんまりとしてまとまっているが、今現在「まちづくり協議会」を立ち上げていない。

飯田町は町の中にセントラルパーク飯田という事務所を作って、そこで話し合いをしているが、今は、若いグループ、商店街のグループ、それと区長・町内会長グループ、主にこの三つが分かれて独自の話し合いをしている。そこで、そろそろ「まちづくり協議会」をその人たちが集まって立ち上げようかということを考えており、今月の27日に行政にお願いをして、コンサルの人に来ていただき、正式に飯田町としての「まちづくり協議会」の立ち上げを考えているところである。

また、話し合いの中で飯田町の地図が欲しいと言われる。コンサルの方が飯田町全体の地図を持って

おられて、話し合いの中でも地図をその会場に貼って、ここはこうなるというのを書き入れたいが、どこに行けばいただけるか。

**【橋本委員長】**

皆さんの意見集約をするための白地図みたいなものは、飯田町だけではなくて、恐らく他地区でも同じような要望があるのではと思う。

**【濱野事務局長】**

環境建設課の方で準備できるので、必要な部分がありましたら準備させていただく。

**【泉谷委員】**

それと北澤委員が最初に言われていた避難所について、実際避難した時には避難所を管理する人はほとんどいなかった。そこに有志の人たちがいて、こうしようと言えば、要介助者などの方たちを何とかできるかと思うが、実際はそういう人たちはいないし、行政の方もそこにいるとは限らないので、本当は最初の避難から2日目、3日目ぐらいが一番重要かなと思う。その3日間で「そこにいる人たちでやってください」というような形になってくるので、何とかその辺がうまくいくようにするのが一番かなと思う。そのために、たまたま飯田町の場合は、体育館が土砂崩れで使えないというので、各教室に分かれて入っていただいた結果、町内別に入ることができた。

やはり町内というのは、どうしても日頃から付き合いをされているので、そういう人たちの面倒をよく見ていただける。例えば教室の椅子に乗せてトイレまで運んだとか、そういうのは近所の人じゃないと中々できないかなと思う。最初から3日間ぐらいの計画をきっちり立てておいた方が良くかなと思う。

**【宮野委員】**

私の事業所には、震災前までの利用者で障害者59名いたが、震災後16名が市外へ移住して、現状43名の障害の方がおり運営をしている。

その中で、障害のある1人がボランティアの方が毎日たくさん出入りしておられるのを見て、「私らも何かお手伝いすることはありますか」という言葉が出た。その意見を非常に大事にしたいと思い、先月、能登復興推進隊に登録をした。登録後、中能登就労センターから先週、早速仕事の依頼があり、一つは珠洲市の環境建設課からの依頼で、応急仮設住宅22箇所の中で、管理者の定まっていない所があり、約600戸と聞いているが、そこに「すず広報」をポスティングできないかとのことであった。

もう一つは、総務課からの依頼で、すず広報を市外に900通ほど郵送しており、そういったものを月末近くの半日で袋詰め作業をできないかといった依頼を受けた。大変ありがたい。それと環境建設課からも一つ、仮設住宅周辺の環境整備ということで、ゴミステーションの見回りや通路のゴミ拾い、また、来年春頃から草が生えるだろうから、その除草作業もといった声を受け、メンバーに諮ったところ、是非行きたいと。一応やる方向で現在詰めている。早速第1号として、珠洲市ではないが、明日の午前中、中庭の除草作業依頼を受け、午前中で終わる予定だがメンバー4人ほどで行く予定としている。

**【金田副市長】**

先ほどの丸山区長、多田区長、糸矢区長、皆さんの意見に関連したような話を少しだけさせていただきたい。

復興計画が分厚い資料になっているが、あらゆる分野に被害があったので、あらゆる分野をどう復興

するかはやはりこういったものが必要ということで作っている。そんな中で、やはり優先すべきは、地域の形をまず作らないといけないということで、地区ごとに議論を進めて作っている。

中でも優先すべきは、安定した住まいを作らないといけないということ。まずは災害公営住宅をどう整備していくか、多田区長から宝立では、より具体的な話が出ているから、地権者の話もしてほしいというお話もあった。これからのフェーズはまさしく復興、いわゆる事業、国土交通省にも関係するし、石川県にも関係するし、珠洲市はもちろんど真ん中で関係するが、そういった事業をいよいよ7年度から始めなければいけないということになっていく。復旧・復興本部事務局というよりも、担当課である環境建設課がそれを担当するということになる。例えば災害公営住宅一つとっても、そこに何戸分のを、どういう形で、どの向きに建てるということは、その前後の道路にも当然影響する。

住んでいなかった所に作るということは、水道管の太さ、流す下水の量、全てに関係してくる。そんな計算や協議、もしくは検討を具体的に進めないといけない時期にも来ている。それを検討するための、まずは「たたき台」というものを地域で議論していただきたい。地域の意向とか意識が行政側に伝わってこない、これまでは具体的な検討に入っていけなかった。ようやくそれに近いものになってきた。

要するに優先順位は、災害公営住宅の場所を決め、それに関係する道路の形を決め、その関連予算を国に要求し、もしくは市で予算化をし、7年度から実際に動いていくが、住宅にしても、道路にしても設計が必要で、色々な調査も必要である。一般的に、災害公営住宅が出来るまで2年～3年位かかるというふうに言われている。その間は仮設住宅で過ごしていただく流れになるが、いずれにしてもまずは、住まいと道を直さないことには、その先の様々なこういったものを作ってほしい、こういったものがあれば良い等色々あるが、そういったものは、順番としては、その次の段階に予算をつける順番になっていくと思う。

今、災害公営住宅は、市内全体で約700戸必要であろうと、最新のアンケート結果では出ている。これも最終的には、もう少し詳しいアンケートをこれからとるが、そういったものが一度にできるわけではない。700戸を同時に着工できれば、それはそれで理想だが、実際にはそうはならない。ということは、優先される地域はどこなのか、どこからどう整備していくのか、こういったこともこれから皆さんと協議しながら、そのスケジュール感を決めていくということにもなる。

要するに、住まいと道路をまずはしっかり優先しながら整備して、その先にあると思われるお祭りであったり、地域の教育や福祉やそういったものをどう積み上げていくかという先々を見据えた大きな方針というか、大きな計画がこの復興計画である。当面、まずは市長がおっしゃる「まちのかたち」をどうするかが資料7に書いてある。これがざっくり言うと、今の珠洲市の復興の進め方の大きな方針になると思っているので、繰り返しになるがご理解をお願い申し上げる。

#### 【大野委員】

第1回目から林業という部分に触れられている部分が少ないのではないかとのご指摘をさせていただいてきた。これは理解しているが、進むにつれ優先順位的にはどうしても薄れていくものであろうと、森林組合の方との話し合いの中でも、現場で命がけで木を切っておられる方ですら、優先順位で言えば、今自分達に予算を付けるなんて、口が裂けてもとても言えないと言っている。

そんな状況なので何か予算立てをしてほしいとか、そういうところまでの言及をするつもりはないし、まだ全体を把握して、具体の政策を提案するまで勉強もできていない状態だが、そうとはいえ、豪雨が発生した、気候変動が起きているということ、それを何とかしていこうと思った時に、やはり山をちゃんと守っていくことという治水の力とかもある。実際に、今回の豪雨災害でたくさん被害が出たのは、大きな山が崩れたからということもある。だから何とか家を建てる時もそうなんだろうが、山の方も境

界線の問題がずっと課題としてあった。

特に私の住む集落は公図と森林簿と、実際の地主たちの思っている境界が全く違う。これは何か開発していくとか、家を建てる、山を触っていかうとした時に必ず障害になってくるものである。

全国的には何らかの形でそういうのを解消していく取り組みがなされているというふうに聞いているが、この際、この能登でもそういう境界線をはっきりしていくようなことを、まさにデジタル・トランスフォーメーションの力も活用しながら、一部の森林組合では既に取り組んでいるとは聞いているが、それをもう少し加速度的に、この際きっちりしておくということは、未来に繋がる子どもたちが、これから何かしていくためにも重要なことになってくると思うので、何かそうしたことも、今後整備していくということも、復興計画の中に文言として入れてもらえるものなら、お願いできたらと思う。

**【濱野事務局長】**

産業振興課の方と相談させていただいて、どの程度のものが書き込めるのか、また書き込めないのかも含めて、後ほど相談させていただきたい。

**【橋本委員長】**

色々な権利関係の確定は、今回の公費解体もそうだったと思うが、とても重要で、防災の観点でも、こういった手続きはとても重要だということを再認識したところである。

その他、特にご意見がないようでしたら、次の議事に移りたいと思う。

それでは議事の③今後のスケジュールについて事務局よりご説明をお願いします。

< 事務局より議事③の説明 >

**【西次長】**

次回の策定委員会は、来年2月1日、土曜日の開催を予定している。

復興計画案は、本日の協議結果を踏まえ修正し、12月4日から開催する地区住民意見交換会を経て、年末年始を挟み、パブリックコメントを行う。次回委員会では、パブリックコメントの内容確認と、それを踏まえた復興計画の最終版を協議いただきたいと考えている。

地区別の協議は継続して実施することとし、年度内に各地区の復興方針図をかため、復興計画の資料編として位置付けたいと考えている。

**【橋本委員長】**

今ほど説明のあった、今後のスケジュールについて、ご意見、ご質問をいただきたい。

**【糸矢委員】**

先ほども言ったが、農協や漁協が1回もこの場に来ていない。そこにこのプランを見せて、意見をもらってこないといけない。林業だってそうである。里山里海と書いておいて、その辺の意見を何も反映していない。そこはしっかりしてほしい。

**【西次長】**

漁協の山崎委員に関しては、毎回事前に資料を送付している。仕事の都合で参加できないということで、平日なら空いているそうだが、土日開催を基本にさせていただいているということで、資料を事前にお配りし、漁業のことについても記載してあるため、意見があったらいただき、他の委員の皆さんに

お示ししたいという案内は差し上げている。また農協や森林組合に関しては、個別にヒアリングしていきたい。

【泉谷市長】

スケジュールに出ている珠洲市まちづくり創造会議を一度開いたのでは。

【西次長】

7月頃に珠洲市まちづくり創造会議は開いている。この珠洲市まちづくり創造会議は、珠洲市の総合戦略を作る策定委員の皆さんが、この委員になっており、一度その場で復興計画のたたき台はご説明している。

【泉谷市長】

そこには農協、漁協の関係の方や森林組合の方も入っていたか。

【西次長】

入っている。商工会議所も入っている。

そこで、色々な意見もいただいて、そうした意見も反映して、本日に至っている。ただし、現在の復興計画案の状態では、ご意見をいただいているので、一度ご意見をお聞きしたいと思う。

【泉谷市長】

実際には、農業・漁業の関係での地震や豪雨の被害に対する復旧に向けての色々なやり取りは随時しているので、復旧について全くやり取りが無いということではない。復興計画についても全くやり取りがないということでもない。

【糸矢委員】

行政も農協も何となく大きな枠組みのことは言うが、農業者一人一人だったりすると、対応に困っている。農協も漁協も、自分のところの組織なり、建物なりを何とかするというので、精一杯。市もそうなのかもしれないが、じゃあ漁業はどうする、農業をどうするというは、良くなればということはあるが、はっきり言ってノープラン。

【泉谷市長】

ここの農地を何とかしてくれ、ここの水路を何とかしてくれ、ここの土砂崩れを何とかしてくれというのは頻繁に入ってきていて、それに対しては都度対応している。全てやりきっているかと言えばそうではないかもしれないが、全て要望は承っている。

【糸矢委員】

全部の地域から意見が集約できているかというのと、多分できてない。酷い所は言うかもしれない。大谷の田んぼについては誰も言ってこないだろう。

【泉谷市長】

大谷地区は土地改良区から抜けるという話も聞いている。大谷、馬縞はもう恐らく営農再開が困難な

部分が多いと思う。

漁業についても各漁港や船溜まりの復旧については産業振興課の方で承っているし、また集約については県漁協の方で検討はされている、あるいはもう大体方針は決められたということである。

#### 【糸矢委員】

それは分かるが、例えば漁業だったら、漁港は整備する、なんとか直す。だけど、そこに付き物の製氷機とか、給油施設とかがなければ、建物は立派になったけど、電気も水道も無い家と同じである。そこには必ず、漁協のお金が入らないとできない。ところが漁協はできるだけ集約しようとしている。農協も同じ。そこを何とか話し合っ、協力していくという方向で考えてほしい。

#### 【泉谷市長】

県漁協として集約の方針を示された。それについては漁協の組合員の了承を得て決めたというふうに言われると思う。集約をして製氷機、給油施設は全てではなく、ここに設置するといったことで、それに対する補助を珠洲市にお願いをしたいということを言われたとして、それに対して、いやいや漁協さん、私とすれば全ての漁港に製氷施設を付けたいというところまでは中々難しい。

#### 【糸矢委員】

今はほとんど漁業ができていない状況で、珠洲市の漁協が漁業者にそんな話を聞いているのか。それだから漁協には、この場に出てきてほしい。漁協の中でも完結できていると思えない。農協や漁協の会議に行って意見は言ったりしているが、前に進まない。漁協も農協も忙しい。そんな中で一番困っているのは、漁業者だったり農業者だったりする。商業も同じだが、それはなりわいだから自分達で考えろと言われてたら、行政は何をするんだと言いたい。だからもう少し、その辺も含めて対応していただきたい。

#### 【足袋抜委員】

課題が二つある。私は米を作っていないが、別会社で米の取引をしている。先々週ぐらいに、豪雨の後、農家さんのところへ行ってきたが、用水に泥が溜まっているのを何とかしてほしい、自分たちでどうにもできないという話であった。ボランティアにお願いはできるけれども、管理者がいない、監督者がいない。

マネジメントする人間がいないので、農家さんが別の仕事があるのに付きっきりにならなくてはならず、作業が遅れるという問題があって、一つは現場でボランティアしてくれる人の監督者がまず必要だということ、あとは大野委員の話でもあるが、皆が意見を言えないということ。何とかしてくれというその声が多分あげられない環境があるというのが多分問題で、だからお話を聞くというのはすごく大事だが、話を聞くという前に言えないという、性格的ところが強いのかなという気はするので、遠慮しないで「支援しろ」と言うべきだと思うが、個別に言えば、それぞれの優先順位はもっと細かくなるので、そうすると自分の意見を押し殺すという状態が多分こうなっているのかなという気がする。一つは言える環境を作るとのことと、もう一つは、要するに現場でボランティアさんをマネジメントする人間を配置しないと、作業は多分進まないだろうなど。量はそれほどでもなくとも、少し頑張ればできるが、自分たちではできないみたいな話なので、そこを調整する必要あるのかなという気はする。

#### 【泉谷市長】



農地の復旧に関しても行政なので、色々な形であげていただければと思う。

あとは共同施設としての給油施設とか、製氷施設とか、それについては全て珠洲市の方針として復旧する、しないということよりは、ご要望のあった船溜まりであったり、市管理の漁港については、できるだけ復旧は進めていくので、そこは正式に組合長や支所長がいらっしゃらないと、全く進まないということではない。復旧は復旧として、もちろん進めていくのでそこはご理解いただきたいと思う。その先の復興については、様々な計画は練っているので、フワッとした印象はあるかもしれないが、当面、迅速に進めていかなければならない。復旧についてはしっかり進めていく。だからその辺がもしかしたら組織としての思いと、個別に従事されている方の思いと違うのかもしれないし、地域としての思いもあるでしょうし、できるだけ広く対応していきたいと思う。

#### 【糸矢委員】

行政の限界。それから組織の限界を今感じている。要するにどこも人手がない状況ということ。

できるだけ、農林水産業、1次産業のところ目に向くような復興計画にしてもらいたい。やっぱりどう見ても、そう見えないので。

#### 【橋本委員長】

今回の検討会の件のとりまとめ、それから地区説明会に向けて、しっかりと反映をしていただきたいと思う。あとは並行して進んでいる農地の災害復旧など、そちらで出ているような内容も入れられるものは入れていただくのが良いのかなと思った。

以上で、次第に基づく議事は全て終了した。本日いただいたご意見等を参考に、策定作業を更にアップデート進めていただければと思う。長時間にわたるご協力に感謝申し上げます。進行を事務局に戻す。

#### 【濱野事務局長】

橋本委員長、会議の進行ありがとうございました。それでは最後に北澤委員及びNPO法人ガクソーの方から別資料に基づいて説明がありますので発言をお願い申し上げます。

< 北澤委員及びNPO法人ガクソーより、別途資料の説明 >

以上をもちまして第3回策定委員会を閉会いたします。

以上